適用題「大造じいさんとガン」（光村図書五年）

＊適用題に使用する教材文・・・「ごんぎつね」（光村図書四年下）

学んだことをたしかめよう

【問題】

四年生で学習した「ごんぎつね」の表現の効果について、自分の考えをまとめます。

名前（　　　　　　　　　　　　　　　　）

次の【「ごんぎつね」の文章の一部】にある部の中から、文を一つ選んで　　　　　　　に書きぬき、　　　　　　　に、その文中にある表現の効果について自分の考

えを書きましょう。

【「ごんぎつね」の文章の一部】

※「ごんぎつね」（光村図書四年下）

　「４」の場面と、「５」の場面の一部

　　サイドライン（）を引く部分

　　・「ごんは、ぶらぶら遊びに出かけました。」

　　・「ごんはびくっとして、小さくなって立ち止まりました。」

　　・「兵十のかげぼうしをふみふみ行きました。」

　右の枠内に、「ごんぎつね」の「４」の場面と「５」の場面の一部の文章を入れてお使いください。

　右記に示しているサイドラインを引く部分については、一例として挙げています。表現の効果について自分の考えを書かせるために、他の文や場面を活用されてもよいと思います。

の表現の効果

☆選んだ文を書きぬきます。

名前（　　　　　　　　　　　　　　　　）

ごんぎつね

☆選んだ文にある表現の効果について、自分の考えを書きます。

の表現の効果

例

☆選んだ文を書きぬきます。

大造じいさんとガン

東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。

☆選んだ文にある表現の効果について、自分の考えを書きます。

「赤くなって」ではなくて、「真っ赤に燃えて」と書かれていることで、燃える朝日のように大造じいさんの気持ちが燃えていることを表しています。今年こそは、絶対つかまえるぞ！本気でつかまえるぞ！ついにこのときがきた！という思いが伝わります。

（書き方の例）

☆選んだ文を書きぬきます。

ごんは、ぶらぶら遊びに出かけました。

☆選んだ文にある表現の効果について、自分の考えを書きます。

②

①

「ぶらぶら」という表現がないと、だれかと遊ぶように感じられますが、「ぶらぶら」があることで、ごんが用もなく出かけていることが分かります。何か楽しいことがないかなあと期待している気持ちが表れているようで、とても印象的です。

（書き方の例）

☆選んだ文を書きぬきます。

ごんはびくっとして、小さくなって立ち止まりました。

☆選んだ文にある表現の効果について、自分の考えを書きます。

②

①

「びくっとして、小さくなって」の表現がないと、見つかってもいいという気持ちがあるように感じますが、「びくっとして、小さくなって」の表現があると、見つかったと思って、とてもびっくりした様子が分かります。今、見つかったら、兵十と加助が話していることの続きが聞けなくなると考えていると思います。

（書き方の例）

☆選んだ文を書きぬきます。

兵十のかげぼうしをふみふみ行きました。

☆選んだ文にある表現の効果について、自分の考えを書きます。

②

①

「ふんで」ではなく、「ふみふみ」と書かれていることで、兵十の後をずっとついていって話を聞こうとしていることが分かります。ごんが兵十のかげぼうしをふみながらついていっているところを想像すると、ごんが兵十のことが気になって仕方がないんだろうなと思いました。

　《評価のポイント》

本単元で，児童に身に付けさせたい力は，「表現の効果について自分の考えをまとめる力」です。

　評価をする際は，以下の２点を書くことができているのかに注目するとよいでしょう。

①（　　　　部）「手掛かりとなる表現について、その表現と別の表現を比べる」または，「手掛かりとなる表現がある場合とない場合を比べる」のどちらかについて書くことができているのか。そして，その表現がどのような効果をもたらしているのか。

②（　　　　部）その表現から物語全体や場面がどのような様子なのか，登場人物がどのような心情なのかについて書くことができているのか。